



壹千八百  
七拾三年  
和蘭國新聞紙抄譯  
全

洋学文庫  
文庫8  
C 234



一千八百  
七十三年

和蘭國新聞紙抄譯



1873-1874



一千八百七十三年和蘭國新聞紙抄譯

瀨脇壽人光壽 譯稿



凡ソ二十年前ニハ和蘭人未タ日本國ト唯一種  
ノ盟約ヲ結ビ又北海海濱ノ尚開化セサル平民  
及ヒ太平洋海諸島ノ平民トモ同様一種ノ盟約ヲ  
為シ居タリ

尚上代二百五十年前ニ遡レハ日ノ昇ル國皇國  
原義ハ日ノ昇ルトイフ意ト交通シテ大ニ恩惠  
ヲ受タルハ特リ和蘭國ノニナリ

日本國ト和蘭國トノ交通ニ於テ和蘭國ニテハ



物品ニテ大益アリ日本ニテハ物品ト學藝トニ  
テ大益アリ是故ニ兩國共ニ永ク交通シテ交際  
ノ切要トセシナリ

此時日本ニ在留スル和蘭人大ニ輕蔑侮慢セラ  
レタレ氏一千八百年前ニハ毎年得ル所ノ全數  
五噸以上ナルヲ以テ此利ノ為ニ縛セラレ忿怒  
ヲ抑ヘ胸臆ヲ慰シ日本國ト交通シテ外國ノ奇  
事珍聞ヲ報シタリ

日本人渺茫タル萬里ノ西洋ノ事件ヲ聞ニハ悉  
ク和蘭人ノ手ヲ經サル事ヲ得ヌ又和蘭ノ書籍

ニ因ラサル事ヲ得サルカ故ニ和蘭ノ書籍一個  
ノ高品ト為リタリ斯ク日本人ノ開化ニ赴キシ  
其初ハ先ツ和蘭ノ風俗ニ倣ヒ夫ヨリ外國ニ在  
タル大变革ノ事蹟大發明ノ珍說ヲ好ムニ至リ  
レモ敢テ驚キ且怪ムヘキ事ニ非ス皆和蘭ノ書  
籍ヨリ出ツ其後日本ニ缺ヘカラサル要品ヲ求  
ムルニ當テハ遂ニ和蘭船ノ入港ヲ屈指渴望ス  
ルニ至リシナリ

一千七百八十二年和蘭國ト英國ト戦闘アリテ  
久ク日本ニ往ク事能ハサレハ和蘭船一艘モ出

島ニ碇泊セシ者ナシ此時長崎ノ鎮臺ヨリ祭日  
ヲ設ケ僧徒ヲ招キテ和蘭船ノ来着ヲトシ得ル  
者アラハ大ニ之ヲ賞セント約セシ事アリ  
其後歐洲諸國ハ軍艦屢日本ニ到リ通信交易ヲ  
乞ヒ者アレヒ皆免許ヲ得ル事アタハス此時日  
本政府此軍艦ヲ待遇スルノ礼仪甚夕慇懃ヲ尽  
シタレ共皆免サスシテ返シタリ  
日本人ノ未タ外人ニ迎接スル事ヲ惡シ務メテ  
遠ケン事ヲ謀リシ時ニハ和蘭人ハ唯約束ヲ守  
リ交通セシノミナリ

歐洲人往昔ヨリ日本領内ニ入リシ者幾千人ナ  
ルヤ如何ナル暴戾ヲ為セシヤ又日本ニテ其鎖  
國ノ術ヲ嚴ニセシ事若干ナルヤ又日本人其自  
尊自重ノ威權ヲ減センヤト痛心セシ事若干ナ  
ルヤ實ニ未タ知ルヘカラス  
其後日本人意外ニ能ク関ケタレヒ尚異人ト交  
通スレハ自ラ穢サレントスルノ恐アリ  
此形勢ハ實ニ暫時ニシテ日本人ノ頑固ナル性  
質モ亦和蘭人ノミニ交易特許ノ心労モ時勢ニ  
由テ一時ニ氷解セリ是レ世界ヲ一域ノ如ク見

為シ他國アル事ヲ知ラストイヘル一國起リ来  
リシ故ナリ

一千八百五十四年亞國ノ海軍提督彼理氏日本  
國ニ渡来シ其政府ト條約ヲ結ビケレハ次テ又  
英船渡来シ交易條約ヲ結ビタレ其條約未タ  
全ク備ハラヌシテ我カ和蘭國ノ如クナルニ至  
ル事アマハス

一千八百五十八年ニ至リ日本ト英國ト改メテ  
新ニ條約ヲ定メ和蘭國ト同様ニス此時以來亞  
米利加英吉利魯西亞其他日本ト交通スル諸國

始メテ和蘭ト同一ナルニ至リタリ  
是ニ於テ交易ノ為諸所ニ港ヲ開キ輸入輸出ニ  
嚴ナル規則ヲ設ケ且開港場ニ外國人ノ居留ヲ  
許シ交易セシムル事ト為リタリ  
此時ニ至テハ和蘭人ハ遙ナル東海ニ於テ交易  
ノ為ニ流ルハ昔キ河水ノ流アルヲ遠キ西海ヨ  
リ凄然タル外夷ノ来リテ之ヲ汲ミ取ル者ノ如  
シ  
然レ氏今日ニ在テハ我カ和蘭國ノ美名日本ニ  
於テ尚常ニ馥郁タリ其一証ニハ我カ和蘭國ノ

商社商品アル時ハ日本國ノ開港場ニ到リ交易  
セント謀ル者アル事更ニ疑フヘキ所ナシ  
神奈川開港ノ時我カ「アムステルダム」ノ商社ノ  
蒸氣船「アタラント」船及ヒ「バルク」形「アルゴノ」  
ト船ノ兩船本港ニ入り和蘭ノ國旗ヲ翻シタル  
ナリ  
日本ノ商客ニテ外國人トノ交易ニ大利アル事  
ヲ解セシ者モ尚交易ヲ無益ノ者トイフ臆説ヲ  
起シ盛ニスルノ意ニ乏シ且此時ニ至テモ尚外  
人ノ内人ト交ヲ結フ事ヲ妨ル者多シ即チ所謂

世祿家ニシテ大名旗本ノ類ナリ此大名ト称ス  
ル者多分ニ素餐ノ臣下ヲ率ヒ巨萬ノ金貨ヲ貯  
ヘ又多分ノ租稅ヲ取り加之一種ノ權威ヲ備フ  
斯様ノ妨害アルヲ以テ開港場ニ近接スル地ニ  
住スト雖外人ト交ル事アタハス外人ト交易ス  
ル事アタハスニテ利ヲ得ル事ナク又要事ヲ聞  
キ得ル事ナシ是故ニ又日本域内大半ハ歐洲産  
ノ物品ヲモ媒人アルニ非レハ之ヲ見ル事ヲ得  
ス然ルニ此形勢モ亦漸ク消滅シテ三年前ヨリ  
ハ日本ノ歴史ヲ金字ヲ以テ飾ルニ至レリ

茲ニ日本ニ於テ上古モ亦近代モ未タ曾テ比較  
スヘキ例ナキ義盟社トイフ者起リテ大革命ヲ  
為セリ

此革命ノ基原ハ世祿家ヲ廢シ國民ニ自由ノ權  
ヲ與フル一戦ナリ此時江戸ニ在住シタル將軍  
即チ大君其位階ヲ貶セラレタリ此大君トイヘ  
ルハ本御門ノ世祿家ナリシカ一千二百年代ヨ  
リ御門ノ權威ヲ己レニ歸セシ者ナリ日本國ノ歷  
史ニ暗キ者ハ大君ヲ以テ日本國古來ヨリノ國  
帝ト思ヘル者アリ

此役ノ戰鬪ハ暫時ナリシカ日本國ノ大權忽チ  
聖神皇帝即チ御門ノ手ニ歸シタリ此時日本ニ  
テ最モ大ナル世祿家四人其世祿ヲ御門ニ還シ  
奉リシカハ自餘ノ世祿家モ舉テ皆其世祿ヲ奉  
還セリ是ニ於テ皇帝數百年來冥々暗々ノ内ニ  
居給ヒシカ忽焉トシテ頭ハレ出テ京都一名美  
耶穀ヲ離レ日本國內ノ大都東京一名江戸ヲ皇  
居ノ地ト定メ給ヘリ

一千八百七十一年八月二十九日日本政府ヨリ  
其國內三千五億萬ノ人民ニ令シテ云ク今方ニ



復古維新ノ時来リ世祿家其世祿ヲ奉還スト是  
ニ於テ日本國ノ大權真ノ君上ノ掌中ニ復シテ  
數百年来猖獗ナリシ假王ノ權勢俄然トシテ消  
滅シ御門ノ威權新ニ太陽ノ昇ルカ如ク諸侯兆  
民同心協力シテ十二世連綿タリシ霸王ノ系統  
忽テ消亡シ領地采邑トイフ者ナキニ至リタリ  
日本ニ於テモ亦萬國ニ於ルカ如ク高位高官ノ  
人ニ對スト雖各人其己レカ理アル時ニ臨テハ敢  
テ黙止スル事ナク又敢テ新政府ノ扶助ヲ仰ク  
事ナシ是故ニ政府ニ於テモ喧嘩爭論ノ裁斷等

ヲモ漫リニ遲延スル事アタハスシテ日本國內  
ノ各人皆己レヲ勵マシ己レヲ戒メ勉強スルニ至リ  
シナリ

後來日本國ノ政令一府ニ出レハ其基本確乎ト  
シテ動カス尚漸次ニ改革アリテ益善政ニ赴ク  
ヘシ  
日本國革命少シ前後ニ出タル新聞紙様ノ書類  
ハ實ニ新政府ノ大益ト為リタル事多シ又日本  
國ノ國政家等ヨリ出セル兩三葉宛ノ書類ニ美  
事善道ノミ多クシテ日本國中改革ノ切要ナル

事ヲ載セ且ツ萬民ニ必ス一戰アル事ヲ知シメ  
タリ

一千八百七十一年春江戸ニ於テ日本文ノ新聞  
紙様ノ小冊子兩様ヲ出板セリ其一ヲ太政官日  
誌ト稱シ新政府ノ公達及ヒ公ケノ事件ヲ載セ  
休日毎ニ官板ニシ公行セリ其二ヲ新聞雜誌ト  
稱シ同ク御門ノ政府ノ事件並ニ奇談珍説ヲ加  
ヘテ毎日官板ニシ公行セリ又外ニ日新真事誌  
新聞抄録杯ト題シタル書類或ハ一週或ハ一月  
毎ニ出板スル者多シ

右ノ書類ハ國體一新ヲ賞譽スルノニ非ス舊  
藩ノ者ノ暴發ヲ防キ且徳川氏ノ一族ノ過激ヲ  
遮リ止メ殊ニ采地ニ離レ常祿ヲ失ヒシ者ノ餘  
黨ヲ鎮靜センカ為ナリ日本人ハ方今ニテモ尚  
往古ノ如ク貴族士族一名騎士及ヒ平人ト三等  
ニ分テリ  
彼ノ士族騎士藩士「サムライ」及ヒ兩刀ヲ帶ル者  
必ス困窮ニ至ラン此輩舊來空シク安坐シテ萬  
民ノ米穀ヲ飲食シタレト遠カラスニテ盟社ヲ  
會シ急ニ一地ヲ撰テ手ニ米稻ヲ取リ身思ヲ勞

シ萬民ノ跡ヲ慕ヒ耕作シテ門閥ノ惡風ヨリ遙  
ニ良善ナルヲ知ルニ至ラン事必然ナリ  
士族騎士藩士ノ類農民ト為ラン事ヲ願ヒタレハ  
願意ノ如ク許容アリ然レモ其以下ハ最初ヨリ  
農民タル事ヲ好マス高賈タラン事ヲ乞フ高賈  
ハ日本ニテ甚タ卑賤ノ等級トス其等級僅カニ  
後者ト織多トノ一等上級ニ在ルノ如ク  
諸士農商相混スレモ他人ヨリ思フ如ク士族ヲ  
賤シ農商ヲ貴クセシニハ非ス  
日本政府ヨリ國內ノサムライニ命シ兩刀ヲ脱

セシム和蘭人ノ説ニ兩刀ハ無益ナル切物ナレ  
ハ彼ノサムライモ後來ハ甘ンシテ脱スヘシト  
イヘリ  
日本ニテハ古來ヨリ高貴ノ人ニ非レハ馬ニ乘  
ル事ヲ許サ、リシカ以來ハ國人上下ヲ論セス  
皆乗馬ヲ許サル又サムライト諸人トヲ分ツ為  
ニ一種ノ衣裳アリシカ是又何人之ヲ服スルモ  
禁止ナキ事トナリタリ  
日本ニハ織多ト唱フル者アリ國民ノ内ニ於テ  
最モ下等ニ屬シ古來其頭ニ「バン」  
トイフ物ヲ

被リ居リシカ之ヲ許サレ諸民ト同等ノ級ニ復  
シタリ

古来ヨリ日本ニテハ大ニ貴賤上下ノ別アリテ  
賤シキ者ヲハ恰モ讐敵ノ如ク賤シシカ今日ニ  
至テハ我カ獨逸國ト別ニ大異アル事ナシ  
日本ノ横濱兵庫長崎等ニ在住スル市人十年以  
前悪事ヲ謀リシ者多シ若シ其姓名ヲイフ時ハ  
大ニ罰セラルヘシ

日本國ニ於テ上下貴賤ノ門閥ヲ廢シ悉ク同級  
ニシテ大ニ國民ノ才智ヲ開ントセシカ新聞紙

ニ舉ル激徒ノ議論又其貴族ヨリ建白シタル議  
論ノ為ニ妨ケラレテ大ニ遲延セシ事疑ナシ

日本政府ニ於テ支那學ハ陳腐ニシテ用フヘカ  
ラストシ大ニ學文ノ道ヲ開キ江戸横濱ニ外國  
學校ヲ設ケ生徒ヲ教導セリ

ハ未タ横文ヲ教ヘサレ共國人皆歐洲學亞國學  
ニ志サタル者ナシ

日本ニテ方今ハ諸國ノ書籍ヲ反譯シ且内地ニ  
モ外國ノ教師ヲ雇ヒ教授セシムトイフ

一千八百七十二年七月國中ニ學事新規則ノ布

告アリ此新規則布告ノ中ニ小學校五萬三千七百六十校大學校八校中學校二百六十五校畫學校一校トアリ

日本生徒其學業能ク進步セシ者ハ政府ヨリ毎年賞金ヲ賜ハリ尚外國ニ出テ學フニ適セシム今既ニ華盛頓。伯靈。巴利斯。和蘭ノ學校ニ留學スル日本生徒甚タ多シ此生徒皆其行狀端正ニシテ其勉強ハ孜孜汲々トシテ怠ラス恰モ鋼鐵ノ硬キニ似タリトイヘリ

華盛頓ハ日本ノ貴家ノ女兒渡海シテ亞國女

教師ノ教導ヲ受ル者アリ是レ後日日本ニ皈リ又本國ノ女子ニ教導セシカ為ナリ

一千八百七十二年九月文部省ノ管下ニ政府ノ文庫ヲ設ク其書籍十萬卷トイフ是レ多クハ大君ノ時代ニ集ル所ニ係ル此中一庫ニ洋籍アリ右ニ載ル所ノ方法ニ由テ生徒ヲ教育ス又百物製造ヲ研究セシメ江戸京都一名美耶古ニ博覽會ヲ開キ未タ極盛トイフニハ至ラサレ凡是レ政府ニテ百物製造ニ其術ヲ尽シ世話アル徴ナリ

又一千八百七十三年二月十日日本ノ蒸氣船ニ  
テ「ウエー子」ノ博覽會ニ日本製造ノ物品ヲ送レ  
リ必ス「ウエー子」ニテ賞セララルヘシ  
士族ヲ廢シ貨幣ヲ改製シ郵便法ヲ改メ道路ヲ  
新造スル等ノ事件ハ往時ノ政体ヲ一変シ大權  
一途ニ歸スルノ致ス所ニシテ漸次ニ内地モ尚  
能ク改革アリテ善良ナルニ至ルヘシ  
前條ニ述ル如ク善政ヲ施シ良典ヲ設ケ加之御  
門ノ行狀モ大ニ改メ給ヘリ從來日本國人御門  
ヲ以テ生神ト稱シ御門ハ常ニ暗キ深殿ノ内ニ

在シ眼ヲ閉テ黙坐シ夢ノ如ク又幻ノ如ク皇祖  
ノ靈ト相通シ給ヘルト云ヒシカ忽然トシテ明  
堂ニ頭ハレ國事大小ト無ク皆自ラ処置シ給ヘ  
リ  
數十百年前ヨリ御門ノ行幸ニハ其式其礼甚タ  
嚴重ナリシカ近來ハ學校造幣寮博覽會ヘモ動  
モスレハ歩行ニテ赴キ給ヒ又去夏ハ國內ノ遠  
地ニ航海セラレタリ  
一千八百七十二年六月日本ニ於テ始メテ鉄道  
ヲ開キ横濱ヨリ江戸ノ往來ヲ通セリ此時日本

國第一等ノ貴族蒸氣車ノ試アラントテ来リ給  
セシカ定限ノ時刻ヨリ僅ニ一「ミ」トノ遅刻  
ナリ其時刻ヲ量ル事ノ精密ナル實ニ感服セリ  
夫ヨリ上下一同横濱ニ發車アリシトナシ此後  
今年十月十五日悉ク落成シテ御門自ラ臨幸マ  
シマシ發車ノ式ヲ行ヒ給ヒ是ヨリ後今日ニ至  
ルマテ江戸横濱ノ往来連線トシテ片時ニ絶ル  
事ナシ

江戸ヨリ横濱迄ノ里程英國里法ニテ十八里ア  
リ十一月十二月ノ兩月ニテ毎日平均ニ算シ一

日ニ得ル所ノ全數千百五十八弗其往來スル人  
員平均ノ算ニテ一日ニ三千五百人トイヘリ全  
數人員ヲ尚能ク正算スル事ハ實ニ贅言ニ似タ  
レトモ此利益アル事ヲ知ラハ日本ニテモ新器  
械ヲ好ムニ至ラン事必セリ  
又神戸ヨリ大坂へモ鉄道ヲ經營シ既ニ落成セ  
リ大阪ヨリ古都美耶敷へモ經營ノ企アルトイ  
ヘリ  
日本國中礦山アル場所ト開港ノ場所トヲ鉄道  
ニテ通シ其富饒ナル産物ヲ穿テ取ラント頻ニ

其検査アリ  
一千八百七十二年十月傳信線ヲ江戸ヨリ神戸  
長崎支那歐羅巴洲ニ達シ尚日本ト條約諸國ニ  
達セントス此傳信線日本内地ノ外人ヲ知ラサ  
ル者ノ居住スル僻地ヲ通スルヲ以テ土人皆或  
ハ魔線ト稱シ或ハ鬼線ト唱ヘ必ス処女ノ新血  
ヲ塗ル者ナラント評ス是ニ於テ日本域内諸所  
ニ爭乱ヲ起シ処女ハ急ニ其齒ヲ黒色ニ染メ又  
急ニ其眉毛ヲ剃リ以テ既ニ嫁シタル婦人ノ姿  
ニ裝飾セリト一笑スヘシ

日本政府ニテ横濱ヨリ箱館ニ傳信線ヲ架スル  
ノ決議アリ日本ノ鉄道官員傳信線官員ハ他人  
ト異ナル所アリ横濱市中ニ於テ土人毎夜瓦斯  
燈ヲ照シ往来ニ便ス  
右ノ外近來民間普通ニ行ハル、事ハ「グレゴリ  
ア」京派ノ風儀行ハレテ日本國ノ祭日ヲ廢シ日  
曜日ヲ以テ休日ト定ム是レ僅ニ兩三月前ノ決  
議ナリ  
數年前迄ハ疱瘡年月ヲ限リテ流行シ大ニ人命  
ヲ害セシ事アリ政府ニテモ之カ為ニ甚タ痛心



シ諸所ニ病院施薬院ヲ設ケ傳染ヲ防クノ術頗  
ル嚴密ナリ

日本國內近年迄ハ其海岸ニ木造ノ燈明臺ノミ  
アリシカ漸ク開化スルニ從テ建築ニ巧ミナル  
洋人ヲ雇ヒ其海岨諸所ニ石造ノ燈明臺ヲ作り  
航海家ノ安全ニ備フ

横濱港ノ近地横須賀トイフ所ニ造船局ヲ興シ  
乾濠ニ座滑板ニ座ヲ設ケ且工場アリテ大船  
ヲ修復シ蒸氣器械ヲ營繕スルニ備フ其地面大  
約二十六<sup>ハ</sup>ヘクタ<sup>リ</sup>シ<sup>ハ</sup>坪<sup>ノ</sup>数<sup>ト</sup>イフ局内ノ職人千

人餘ニシテ大船ノ修復トイハレ能ク條理ヲ了  
解シ速ニ落成セリ

右ノ造船局モ鐵道ノ如ク政府ヨリ設クル所ナ  
リ然レモ其決議順次未タ確乎トシテ一定セシ

ト云ヒ難キ所アリ

爾来ハ頭髮ヲ剃ル事ヲ禁シテ西洋風ニ長セシ  
メ室内ニ疊ヲ用フル事ヲ許サズ是レ室内不潔  
ナルカ故ナリ又婦人ニ其髮ヲ自ラ結ヒ鬢油ヲ  
用スル事ヲ禁ス其他許多ノ禁止アリツレトモ  
一時ノ流俗ニ屬スル者アリ又至要ナル事アリ

畢竟新政府ノ趣意ハ自主自權ヲ主トシテ百事  
ヲ為ニ吝ナラサルヲ以テ少シハ正道ヨリ離ル  
ル事アルモ敢テ咎ムヘキ所ナシ  
一千八百五十四年日本人某氏亞國公使「ハルリ  
ス」氏ニイヘル事アリ日本國ハ恰モ一人ノ羨少  
婦ノ未タ成長セサル者ノ如シ若シ此婦人ノ意  
ノ如ク紅粉ヲ施シ裝飾セシメハ無二ノ羨婦人  
ト為リ賢オアル數兒ヲ持ントイヘリ尔後殆ト  
二十年ノ星霜ヲ経テ彼ノ羨少婦立派ナル羨人  
トナリ且体力アレハ自ラ家政ヲ行ヒ且一人ノ

羨兒ヲ生リ臣光壽按スルハ恐レ多キ事ナカ  
ラハナルヘシ今上皇帝ノ御事

日本國ハ其盛ナル事今方ニ少年ノ如クナレハ  
尚知識ヲ世界ニ求メ學術ヲ萬國ニ取リ之ヲ其  
國ニ用フル時ハ從來國內ノ富饒ナル礦物ト其  
人民ノ勉勵トニ由テ必ス東海ノ英國ト為リ日  
本國ニ金色ノ光澤ヲ放タル太陽ノ昇ル時アル  
ヘシ嗚呼盛ナル哉此時亦遠キニアラス  
我カ和蘭國ハ日本國ト古来ノ舊友國ナレハ尚  
其交誼ヲ厚クシ互ニ裨益要事ヲ共ニシ條約諸

國ノ内ニ於テ面目アル坐列ニ至ラン事ヲ願フ  
ノミナリ



